

3. 地域の魅力向上による観光交流の振興

雄大で美しい自然風景や農村景観、雪、流氷、温泉等の資源に恵まれた、日本有数の観光地である。ゆとりある生活、余暇の充実に対する国民のニーズの高まりや変化、国内外からの観光客の増加に対応し、観光客の利便性の向上を図りつつ、地域としての魅力を一層高める必要がある。

(1) 我が国有数の観光地を形成

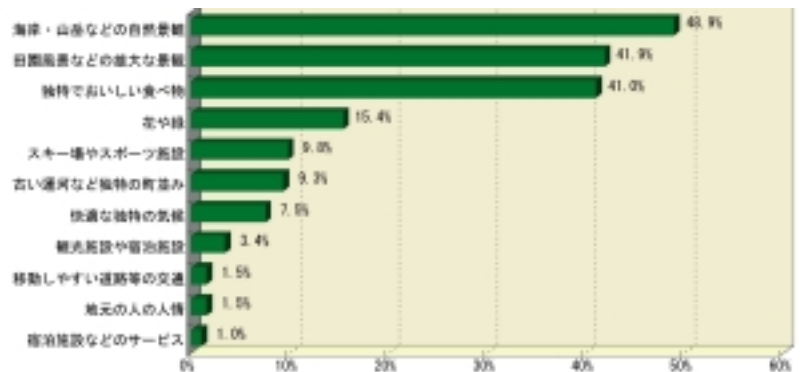
北海道は、行ってみたい旅行先の調査で常にトップにランキングされており、我が国有数の観光地として期待されている。中でも豊かな自然や新鮮な食材は北海道観光の大きな魅力となっている。

■行ってみたい旅行先

順位	地域名	構成比(%)
1位	北海道	12.9
2位	ハワイ	5.9
3位	千葉県	5.5
4位	京都府	4.6
5位	長野県	4.5
6位	東京都	3.9
7位	静岡県	3.9
8位	沖縄県	3.6
9位	大阪府	2.8
10位	米国(本土)	2.7

資料：(財)日本交通公社「旅行者動向2002」

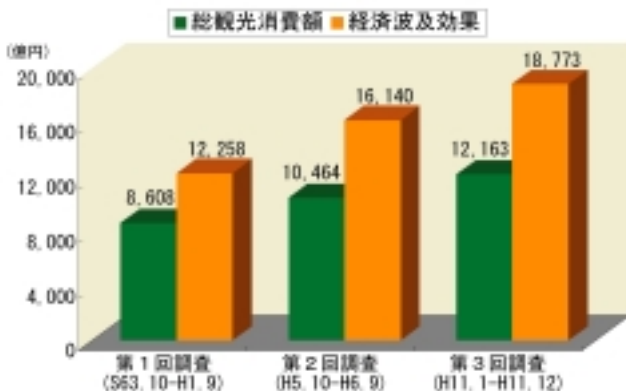
■北海道観光の魅力



資料：北海道開発局
「北海道観光における道路整備調査」(H10.3)

観光は、北海道における基幹産業として成長することが期待されており、現在においても、観光消費による経済波及効果は、2兆円弱にのぼるとされている。

■観光消費による経済波及効果



■観光による経済波及効果の内訳



資料：北海道観光産業経済効果調査委員会「北海道観光産業経済効果調査」

(2) 余暇活動に対する国民ニーズへの対応

オートキャンプ場、海洋性レクリエーションなどのアウトドア活動やグリーン・ツーリズムなどの自然環境を活用した体験型観光へのニーズが全国的に高まっている。

■オートキャンプ場の利用客数・登録箇所数



資料：(社)北海道オートリゾートネットワーク協会調べ

北海道には、公園、スキー場などの観光レクリエーション施設が数多く整備されており、四季折々のメニューを楽しむことが可能である。

■都道府県別観光レクリエーション施設数



資料：(社)日本観光協会「数字でみる観光2003」

注：平成15年3月現在

北海道には、豊富な湧出量を誇る温泉が全国で最も多く賦存しており、温泉観光地における延べ宿泊者数も全国一となっている。

■都道府県別温泉地数（平成13年度）



資料：（社）日本観光協会「数字でみる観光2003」

■都道府県別延べ宿泊利用人員（平成13年度）

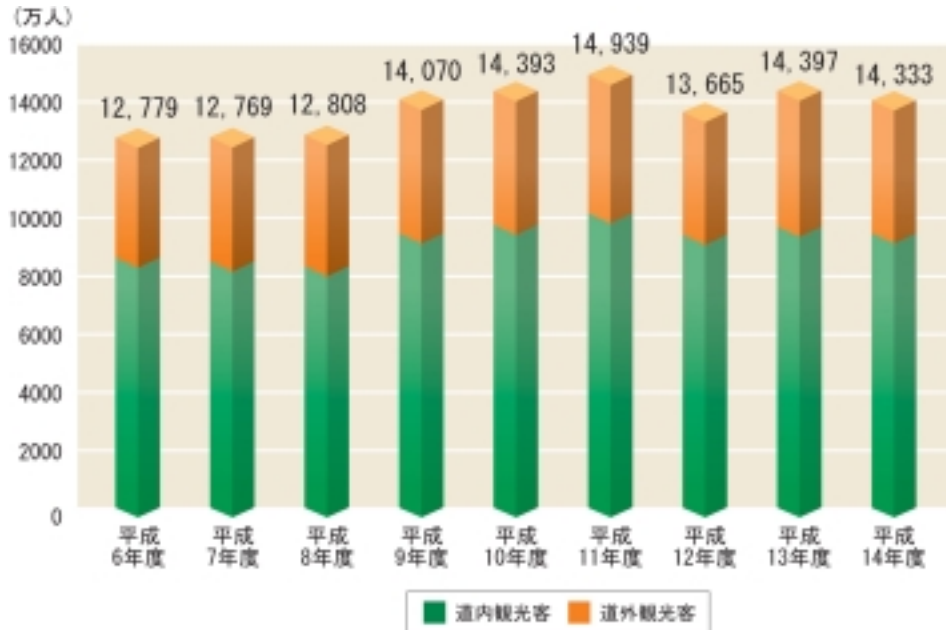


資料：（社）日本観光協会「数字でみる観光2003」

(3) 国内外からの北海道への観光客の増加

平成14年度に北海道の各観光地を訪れた観光客は、道内観光客と道外観光客を合わせて延べ人数で約1億4300万人に達している。

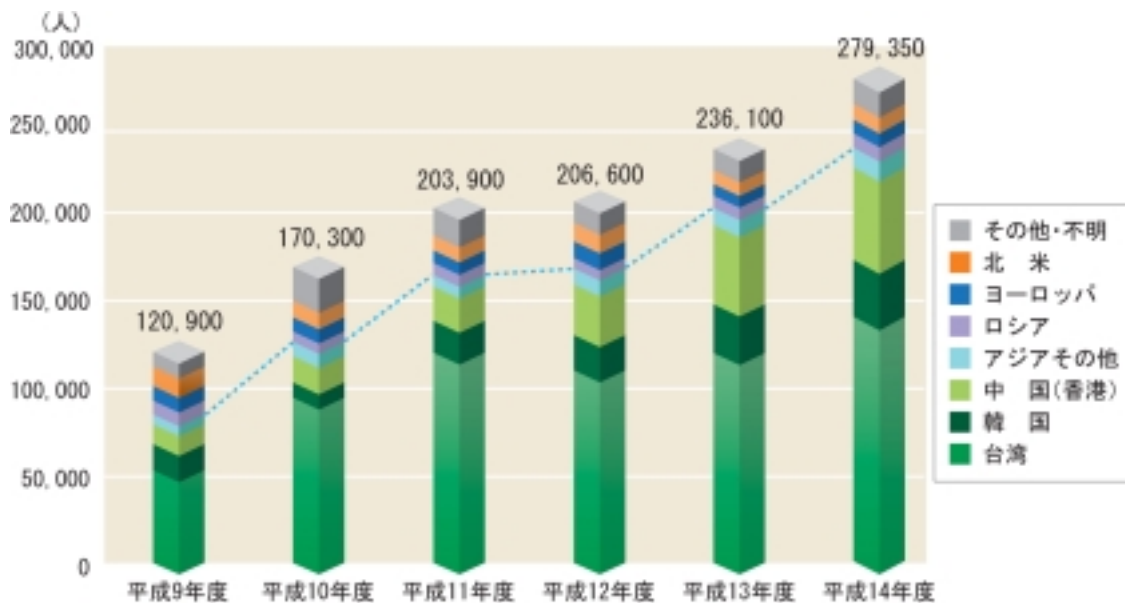
■観光入込客数の推移（延べ人数）



資料：北海道「観光入込客数調査」

来道外国人観光客については、雄大な自然景観や温泉、雪・流水等を目的とした台湾などアジア地域を中心とする外国人観光客が大きく増加している。

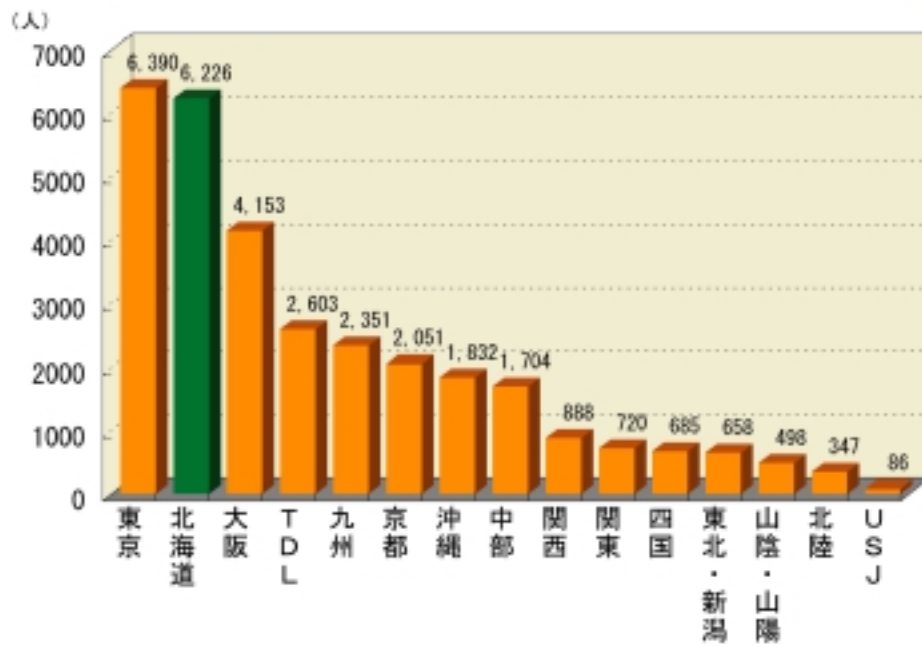
■来道外国人観光客の推移



資料：北海道「観光入込客数調査」

北海道は、東アジア4カ国（中国・韓国・台湾・香港）において、訪問希望先の上位となっている。

■東アジア4カ国における訪問希望先



資料：国土交通省「東アジア四カ国の日本の訪問希望地アンケート調査」（H15.3）

(4) 地域の魅力や観光客の利便性の向上

北海道内各地には、水産業や炭鉱の隆盛時を偲ばせる歴史的建造物や街並みが残っており、新たな観光資源として適切な保全、活用が求められている。

■北海道遺産の位置図



資料：北海道遺産構想推進協議会

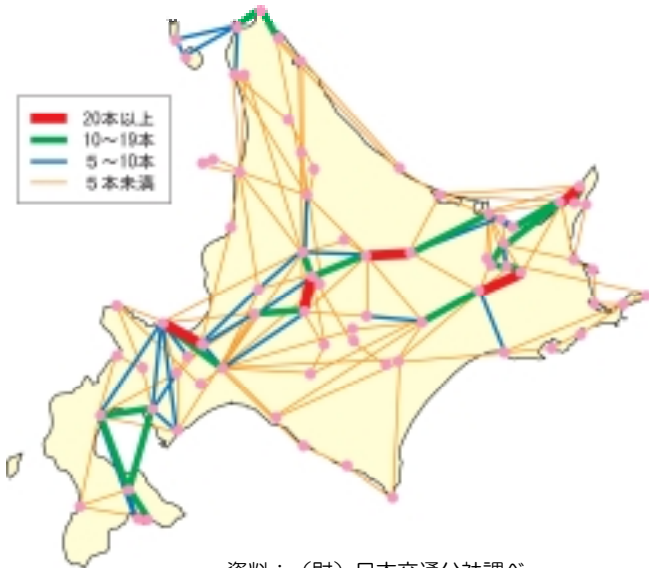
北海道内には、83箇所の「道の駅」が指定され、休憩機能に加えて観光情報の提供や飲食、物販機能が充実してきている。

■北海道における「道の駅」の分布状況

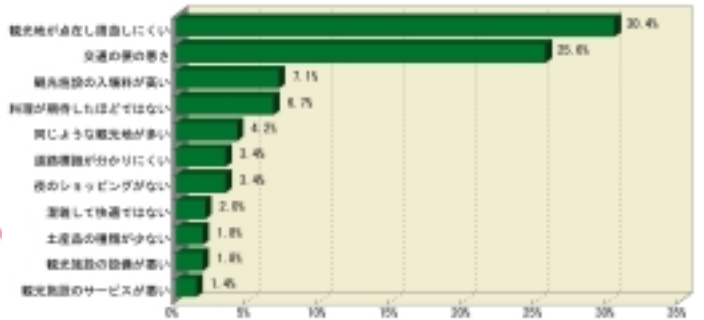


北海道の観光拠点・観光資源は広範囲に分散しており、短時間での観光地間の移動や広域的な周遊観光は困難となっている。

■JTBのパッケージツアー（平成12年）



■北海道観光の課題

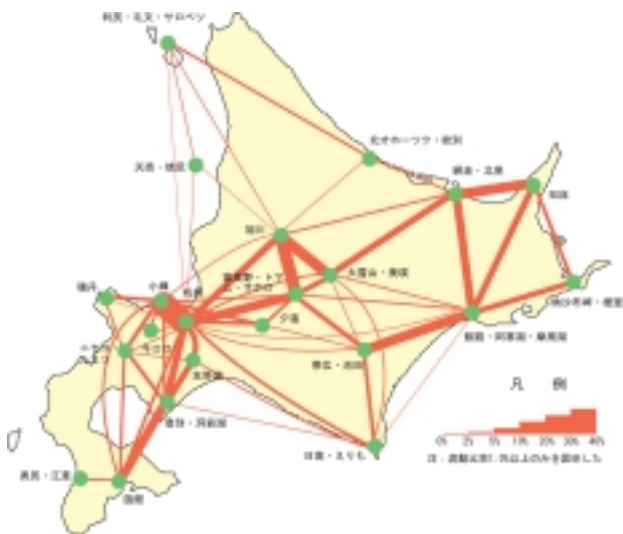


資料：北海道開発局
「北海道観光における道路整備調査」(H10.3)

冬期には観光客の円滑な移動が阻害され、夏期と比べ周遊観光の割合が大きく減少している。

■宿泊観光客の流動状況

《夏期》



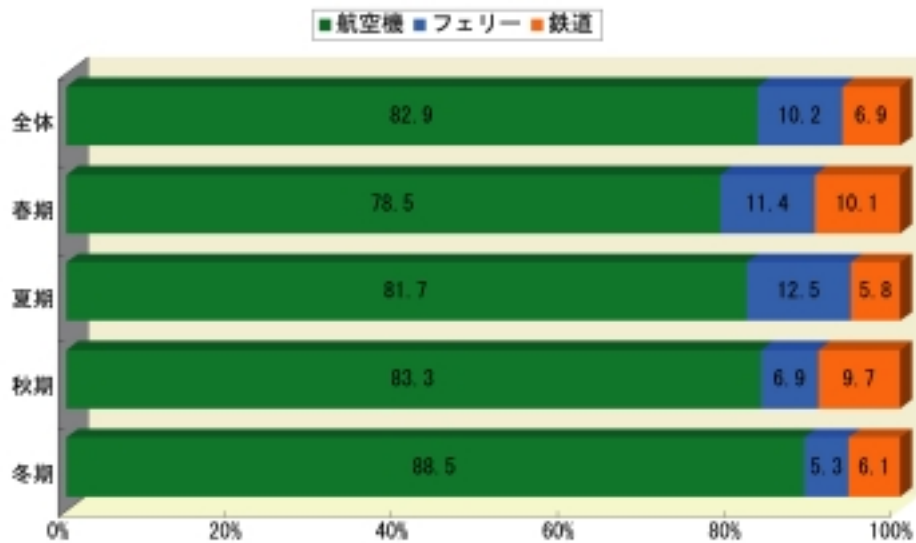
《冬期》



資料：北海道開発局「北海道観光における道路整備調査」(H10.3)

北海道を訪れる道外客の8割は、航空機を利用している。また、夏期には、他の季節と比べてフェリーで来道する道外客の割合が高い。

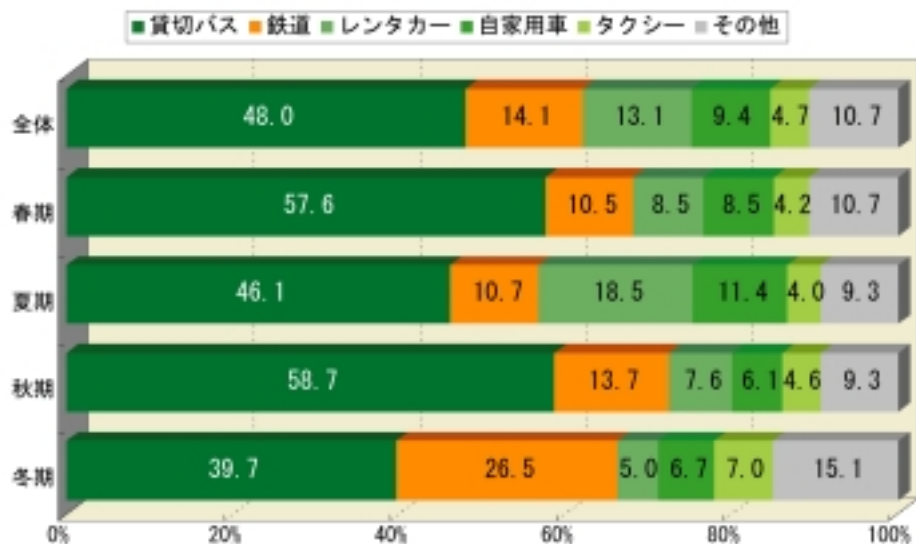
■道外客の来道交通機関（平成14年度）



資料：北海道「観光客動態調査」

北海道は主要観光地が広範囲に分散しており、観光地間の移動手段の8割がバスやレンタカー、自家用車などの自動車交通に依存している。

■道内旅行での主な交通手段（平成14年度）



資料：北海道「観光客動態調査」

国内外の観光客に対して魅力ある北海道への船旅が提供されており、北海道の港湾にはクルーズ船が年間46隻（平成14年）寄港するなど、観光振興による地域の活性化にも貢献している。しかしながら、クルーズ船の係留可能な岸壁が整備されておらず、高齢者も多い乗船客がテンドーボードによる移動を余儀なくされる港湾もある。

■北海道港湾へのクルーズ船の寄港
《室蘭港中央ふ頭旅客船バース》



《小樽港第3号ふ頭》



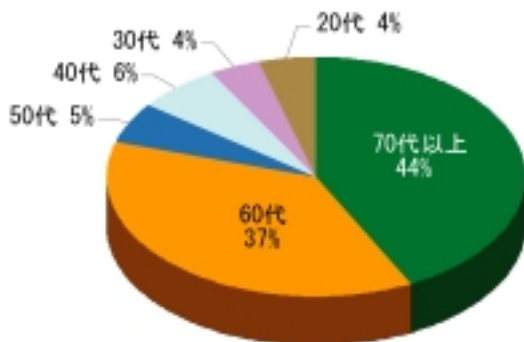
■地域における消費活動

	消費単価 (円/人)	人数(人)	消費額 (万円)
乗船客(オプションツアー参加者)	21,337	143	305
乗船客(自由観光客)	14,145	181	256
一般見学者	1,256	1,500	188

クルーズ船寄港により1隻当り約750万円の消費の発生

資料：北海道開発局調べ（平成13年：室蘭港ふじまる寄港時アンケート）

■クルーズ旅客の年齢層



資料：北海道開発局調べ
（平成13年：室蘭港ふじまる寄港時アンケート）

■テンドーボードによる移動



《テンドーボードで移動する旅客（沓形港）》